

## ツタヤ図書館の“いま” 瓜生泰子

少し前からネガティブなニュアンスで新聞や雑誌、時にはテレビでも取り上げられるようになった「ツタヤ図書館」。メディアにより新たに大きく取り上げられるようになったきっかけは、市民らが情報公開請求した武雄市図書館のリニューアルオープン時購入図書リストが、8月はじめにネット上で公開されたからです。（武雄市でツタヤ図書館計画が持ち上がった時から市民らは情報公開請求を積極的に行っています。しかし手続きが迅速に行われることは少なく、現在は住民による監査請求や訴訟が行われています。）

武雄市図書館でリニューアルオープンにあわせて約1万冊購入された図書は、指定管理者であるCCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）の当時傘下であった大手古書店「ネットオフ」から購入されたもので、遠隔地のラーメンマップや毎年新たに出版される試験問題集の古いものなど、これまでの蔵書構成と比べるまでもなく首をかしげるようなものが多く混じっていました。この選書に対し、CCCからは増田宗昭代表取締役社長の名で「より精度の高い選書を行うべき点があった事を反省しております。」とのコメントが発表されています。

しかし、ひと月ほどの間に膨れ上がったCCCによる選書への疑惑は、10月1日のリニューアルオープンを待つ神奈川県海老名市の海老名市立中央図書館にも向けられました。それを受け、9月の海老名市議会で明らかにされた選書リストには、武雄市同様古い実用書や豪華付録付き雑誌の書名が並び、急遽、教育長が購入予定の本を1冊1冊手にとって確認すると宣言する事態になりました。しかし時間が足りなかったのか、多くの人が問題だと考える図書がオープン後の書架に複数挿架されていました。

また、海老名市立中央図書館に新しく館長として就任したCCCの高橋聡氏はリニューアルオープン前の会見で「武雄市図書館の時、僕たちはド素人でした。」と明言し多くの人を驚かせました。同時に「（武雄市図書館で）もっと良いことができたのではないかと反省しています」とも言っているのですが、武雄市図書館での反省があまり生かされているとは思えない海老名市立中央図書館では、武雄市以上の混乱が起こっています。武雄市図書館でも採用されていたCCC独自分類である「ライフスタイル分類」をより強く出すことで、例えば旅行ジャンルの中に旧約聖書の「出エジプト記」や「伊勢物語」のほか宮沢賢治の「やまなし」が分類されるなど予測不能な挿架がなされ、目的の本が探しづらい状態になっています。その酷さは、ネット上や雑誌で「あまりに斬新すぎる」と痛烈に皮肉られるほどでした。この分類は「発見」を重視したためだそうです。これでは目的の本を素早く探すことができません。また、問題のある分類はその都度修正するとしています。それはライフスタイル分類が些細なことで変更されるものであることを意味しています。書店であれば流行り廃りにあわせて分類を変えたほうが商売に向くでしょう。けれど図書館は、時代に合わせつつも10年先100年先でも十分に使えるよう図書を分類してゆくのです。ちなみに、ラ

イフスタイル分類について CCC の増田宗昭代表取締役社長は、これからも変えないと言い「俺らの持ち味は独自分類だから（週刊東洋経済 10/31）」と明言しています。また図書の探しにくさは分類だけが問題ではありません。空間演出として使われている高層書架も、探しにくさに拍車をかけています。武雄市図書館同様、高い位置に置いてある図書はそのタイトルを読むことさえ困難なのです。

ところで、海老名市立図書館の指定管理者は CCC 単独ではなく、図書館の指定管理では玄人に当たる TRC（図書館流通センター）との共同事業体です。実質的には TRC が分館の海老名市立有馬図書館を分担し、改修工事に入って以降の海老名市立中央図書館に TRC は関わることができなかつたようです。その結果、10月5日 TRC は“様々な提案や助言をしてきたが聞き入れてもらえず思想の違いから協力関係を解消する”という三行半を CCC に突き付けました。その後、市を交えた話し合いの末、海老名市立図書館は基本協定満了日の平成 31 年 3 月 31 日までは CCC と TRC の共同で運営することに落ち着きました。しかし、それ以外では今後 TRC は CCC とは共同しないとも宣言しました。

さて、このような混乱を招いた CCC に対し、行政は何をしていたのでしょうか？

海老名市立中央図書館での混乱は、武雄市図書館を注視していれば予測できることでした。にもかかわらず、CCC の独自分類を了承し空間演出力による高層書架を歓迎したのは海老名市です。

また、新規購入図書が新古書だったことについて、海老名市や武雄市がどのように捉えていたのかは不明ですが、来年 3 月ツタヤ図書館としてオープン予定の宮城県多賀城市立図書館に対しては、新書ではなく新古書を購入することにより資料費をおさえるという提案が CCC から出されていることがわかっています（H26 年多賀城市教育委員会第 4 回臨時会会議録）。この、図書館に新古書を導入するという発想は、2014 年 5 月のこの会報で「福岡市ミニ図書館事業」としてお知らせした通り CCC が早くから持っていたアイデアです。

「利用者数」や「賑わい」に惑わされず図書館が持つ役割をしっかりと把握して当たっていれば、CCC を指定管理者に選ぶことで背負うリスクの大きさに気づくのは、そう難しいことではないはずですが。

CCC の増田宗昭代表取締役社長はこう言います。「CCC に任せると決めたのは市。こっちは任せられた範疇で運営している。市民にも文句を言える仕組みがある。（週刊東洋経済 10/31）」。その言葉通り、ツタヤ図書館が持つ数々の問題を憂慮した市民が各地で声をあげ始めました。

愛知県小牧市では、ツタヤ図書館化するという現在の図書館計画への住民投票の結果が反対多数となり、図書館計画の見直しを行っています。山口県周南市の市民は、徳山駅ビルにツタヤ図書館が入る計画の是非を問う住民投票の実現に向けて動き出しました。多賀城市議会では「「公募もせず CCC の指定管理を決めたのは誤りだった」と指摘したのに対し（中

略) 教育長は「駅前再開発などまちづくりと一体で考え、選んだ。議会の議決など手続きも適切」と答弁(毎日新聞 2015年10月15日地方版)」という1幕もあったようです。

ところで、公共図書館の運営ばかりに目が行くCCCですが、多賀城市ではすでに小学校6校への学校司書派遣業務を行っています。CCCが多賀城市立図書館の指定管理者になるのは来年3月からですが、本年度から図書館の窓口業務を中心に業務委託として関わっているのです。

学校図書館にもかかわりだしたCCCは、文部科学省の「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」の委員にも名を連ねています。委員は、海老名市立中央図書館館長であり「武雄市図書館の時、僕たちはド素人でした。」と発言した高橋聡氏です。

会議はまだ1回しか開催されていません。その「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議(第1回)」の議事録は、文部科学省のホームページで公開されています。

今でもとても人気のあるツタヤ図書館ですが、BOOK&カフェとして褒め称えられるばかりで、図書館として評価されるのを見たことがありません。それに、「福岡市ミニ図書館事業」を導入し一部図書館を指定管理にすると計画していた福岡市が、先日CCCとは別の指定管理者を選定しました。武雄市図書館や海老名市立中央図書館を視察した各地の議員が、ネガティブな感想を寄せているのも目にします。

ツタヤ図書館の騒動を見ていると、図書館の充実と子ども達の為のより良い読書環境を願うときまずやるべきは公務員や議員、首長に対して図書館のことを基本からしっかりと知ってもらうことだと、つくづく思うのです。